

2014年7月31日

(ご参考)

マツダ株式会社
2015年3月期 第1四半期決算説明会
(スピーチ要旨)

執行役員
藤本 哲也

1. 総括

2015年3月期第1四半期の販売実績は、引き続き販売好調なCX-5、Mazda6／アテンザに加え、新型Mazda3／アクセラがグローバルで販売に貢献し、グローバル販売台数は31万9千台となりました。売上高は対前年897億円増加の7,056億円、営業利益は199億円増加の564億円、当期純利益は434億円増加の489億円となりました。

今年1月に量産を開始したメキシコ工場の稼働は順調です。タイの新オートマチックトランスミッション工場の立上げ準備も計画通り進捗しています。

なお、上期および通期の利益見通しについては今回変更いたしません。国内市場の消費税影響や、タイの需要減など、不透明な事業環境を慎重に見極めているところです。

2. 2015年3月期 第1四半期実績

グローバル販売台数は、前年に対し6%増の31万9千台でした。引き続き販売好調なCX-5とグローバルで導入・展開が進んでいる新型Mazda3／アクセラが全体を牽引しました。

地域別では、北米、欧州、中国など主要地域での販売が好調で、消費税影響のある日本、タイでの需要不振による落ち込みをカバーし、トータルで前年を上回る販売を達成しました。

連結売上高は対前年15%増の7,056億円となりました。連結営業利益は564億円と、前年同期に対し199億円の改善となりました。これは主にSKYACTIV搭載車両による台数・構成の改善や、継続的なコスト改善等が寄与したものです。経常利益は546億円、税引前利益は528億円、当期純利益は489億円です。

為替レートは平均で 1ドル102円、1ユーロ140円と、前年に比べドルで3円、ユーロで11円の円安となりました。

各マーケットの状況について説明します。

まず日本では、対前年21%減の4万台の販売でした。新型アクセラの販売は好調を維持しています。一方で、消費税影響等による需要の減少に加え、量販車種であるデミオがモデル末期であることもあり前年比では減少となりました。

今後は、新商品の投入、SKYACTIV商品の広告宣伝強化等により、通期では消費税影響の最小化を図っていきます。

北米では、対前年16%増の11万台の販売でした。

米国の販売は好調で、対前年18%増の7万8千台でした。新型Mazda3は、厳しい競争環境の中、インセンティブを抑制しながら販売を拡大しており、また、CX-5、Mazda6も好調なモメンタムを維持しています。フリート販売は引き続き抑制しており、ブランド価値向上への取り組みを継続・強化しています。メキシコでは、対前年10%増の9千台となりました。新型Mazda3が販売を牽引し、過去最高の販売台数とシェアを達成しました。

欧州では、対前年23%増の5万6千台の販売でした。新型Mazda3とCX-5が販売を牽引し、主要国であるドイツを中心に好調な販売となりました。ドイツでは対前年24%増の1万4千台、英国では対前年12%増の7千台と、堅調な販売を達成しました。ロシアでは市場が低調な中、現地生産のCX-5が販売を伸ばし対前年28%増の1万2千台となりました。

中国では、対前年18%増の4万4千台の販売でした。Mazda6の好調な販売に加え、昨年より現地生産を開始したCX-5が販売を牽引しました。

また、5月から現地製の新型Mazda6や新型Mazda3の販売を開始し、受注は好調に推移しています。中国でもSKYACTIV搭載車両が3モデル出そろいました。今後、さらにSKYACTIV技術や商品の認知向上を図り、販売を拡大してまいります。

その他市場では、対前年4%減の6万9千台の販売でした。

オーストラリアでは、全需の減少が続いており、対前年6%減の2万4千台の販売となりました。

CX-5はSUVセグメントでの販売台数1位を獲得、2月に導入した新型Mazda3の販売は好調です。

ASEANでは、タイでの需要の回復遅れの影響が大きく、対前年7%減の1万9千台となりました。

タイで、3月から現地生産を開始した新型Mazda3の受注は好調で、CX-5とともに他車種の落ち込みを一部オフセットし、販売の減少を抑えています。

連結営業利益の前年に対する改善額199億円の主な要因について説明します。

台数・構成では、SKYACTIV搭載車両の販売拡大およびミックス改善により、220億円の改善となりました。為替は、USDドルで14億円とユーロで26億円の改善、その他通貨は3億円の悪化となり、合計で37億円の改善となりました。変動コスト領域では、コスト改善の推進により68億円の改善となりました。販売費用は、マツダブランドや新型Mazda3などの広告宣伝活動強化により、20億円の費用増となりました。その他固定費領域では、開発費、メキシコ工場の固定費等の増加により、106億円の費用増となりました。

グローバル販売台数の見通しについてご説明します。

日本は消費税影響を考慮し、上期計画を1万台引き下げますが、下期にリカバリーを図り通期計画は据え置きます。新商品の投入、SKYACTIV商品の広告宣伝強化等の取り組みにより計画達成を目指します。日本以外の地域については、上期、通期計画ともに変更はありません。

新型Mazda3／アクセラの通年販売貢献や新型Mazda2／デミオなど新商品の投入により、通期は

期初の公表通り142万台の見通しです。

台数の変更に伴い、売上高を上期と下期で300億円修正しましたが、期中の事業環境の変化等を見極める必要もあり、利益見通しの上期／下期での変更はありません。

「構造改革プラン」は順調に進捗しています。

SKYACTIV搭載車両の拡充についてご説明します。先ほど市場別にご説明した通り、新型Mazda3／アクセラの販売はグローバルで順調です。

デザイン、走り、優れた環境・安全性能に国内外で高い評価をいただいております、正価販売も継続し、台数および収益の拡大に貢献しています。

今期は、新世代商品初のコンパクトカーである新型Mazda2／デミオを導入します。新型Mazda2は、SKYACTIV技術、魂動デザイン、i-ACTIVSENSEなど、これまで培ってきた技術をすべて継承・進化させています。また、新開発の小排気量クリーンディーゼルエンジン「SKYACTIV-D 1.5」を搭載します。ガソリン2.5リットルエンジンに相当するトルクで力強い走りを実現します。

グローバル生産体制の再構築について、ご説明します。

1月に稼働開始したメキシコ工場の立ち上がりは順調です。1月～3月の前第4四半期では1万台、4月から6月の当第1四半期では1万5千台と、順調に生産を拡大しています。7月より2直生産体制へ移行しました。今期のグローバルでの台数成長に貢献していきます。

タイの新オートマチックトランスミッション工場の立上げ準備も計画通り進捗しています。2015年1月の稼働開始に向けて着々と準備を進めており、年産能力は40万基規模を計画しています。

これら計画を確実に推し進め、SKYACTIV車の需要増に対応したより強固なグローバル生産体制を確立してまいります。

3. まとめ

グローバルで導入・展開が進む新型Mazda3の販売が本格寄与し、グローバル販売台数は対前年6%増の31万9千台となりました。SKYACTIV技術搭載比率は67%まで増加しています。

メキシコ工場の稼働は順調で、タイの新オートマチックトランスミッション工場の立上げ準備も計画どおりです。

為替影響もあり、営業利益は564億円、ROSは8%と、今期の利益目標に対して計画どおり進捗しています。

今期も引き続き、構造改革プランを推進してまいります。

新型デミオを投入するなど、SKYACTIV搭載車両のラインナップ拡充を図ります。

将来の台数成長に向けたグローバル生産体制の再構築も、着実に実施していきます。

また、SKYACTIV商品群の高い商品価値を訴求する広告宣伝活動や、正価販売を継続し、ブランド戦略を加速させていきます。

以上